

HOT NEWS

雲仙復興事務所

平成26年6月5日

「雲仙普賢岳災害を学ぶ」
～湯江小学校 現地見学会～

発信元

雲仙復興事務所
調査課 遠藤 亮子

島原市立湯江小学校の子供達44名と先生4名、計48名の皆さんが災害について学びました。

平成6年の溶岩ドーム崩壊の際、火砕流の被害にあった湯江川の流域にある湯江小学校は、**噴火災害学習に力を入れており、毎年3年生の子供達が現地見学会を行っています。**

平成新山は240メートルの溶岩が積もってできていること、14年間に1メートル動いている話に、興味津々でした。砂防施設づくりで働く人たちの避難場所にもなっている監視所では、3階の展望ルームの窓越しに見える定点（雲仙普賢岳の噴火活動を正面から見る事ができた地点で、平成3年6月3日に発生した火砕流によって多くの方がこの場所で犠牲になりました）の三角錐の場所など真剣に見ていました。

今から23年前に起きた雲仙普賢岳の噴火で大きな火砕流や土石流によって変わり果てた場所とその時の様子を間近に見た子供達は、それぞれに自然の怖さを学んでいました。「雨どいのパイプは、なぜ溶けているの？」や「北上木場の火砕流で燃えた家は何軒くらいあるの？」など尋ねて、熱心にメモをしていました。

雲仙の噴火災害は、**いかに火砕流から身を守るか**がキーワードではないかと思えます。子供たちからの「火砕流が来たら早めに逃げないと！」という声や熱心に学んでいる姿から、過去の噴火災害を知ること・防災の重要性を感じました。

定点の見学



小雨の中、火砕流を撮影していた人が命を落とした「定点」というところを見学しました。

火砕流の熱風のすごさを教えてくれる校舎とその被害に負けず成長するイチヨウの木を見ました。



旧大野木場小学校被災校舎の見学

お礼の手紙も頂きました！！

